

## 精神疾患を持つ妊産婦の歴史と支援の現状

分野名：生命育成看護科学講座

指導教員：遠藤 誠之

キーワード：精神疾患 妊産婦 支援体制

学籍番号・氏名：05B17064 松本知穂

### <目的>

精神疾患患者数が増加するに伴い、精神疾患を持つ妊産婦の数も増加している。本研究では、①精神疾患を持つ妊産婦に行われてきた支援の歴史を明らかにするとともに、②精神疾患を持つ妊産婦を対象とした研究がどのように行われているのかを明らかにし、③精神疾患を持つ妊産婦に今後必要な支援について考察することを目的とする。

### <研究方法>

- ① 精神疾患を持つ妊産婦の背景についての歴史、現在の支援、論文研究を比較して支援の方向性を比較検討し、考察する。
- ② 書誌データベースである医学中央雑誌を用い、妊婦に関するシソーラス用語である「妊産婦」、「妊娠合併症」、「妊娠管理」、「ハイリスク妊娠」、「妊産婦の健康」と精神に関するシソーラス用語である「精神障害者」、「産褥精神病」、「精神病」、「精神看護」、「精神疾患」を掛け合わせて検索を行い、該当する研究論文の内容を分類した。

### <結果>

- ① 母子支援の変遷としては「国→市町村」、「病院→地域」、「産後→妊娠期」という流れが妊産婦支援の歴史や現在の支援に見られた。また、現在行われている母子支援としては「母子保健施策」、「子育て支援施策」、「支援が必要な家庭の支援」の3つに分けられる。妊婦健康診査などの基本的な母子保健制度に加えて、精神疾患を持つ妊産婦は「養育支援訪問事業」等の支援も受けることができる。その中には0歳児の保護者で精神的に不安定な状態で支援が特に必要な状況に陥っている者に対しての短期集中支援もあり、虐待のリスクファクターにもなる精神疾患を持つ母親への支援が包括的に行われている。
- ② シソーラス用語を掛け合わせた検索から該当した100件前後の論文の種類について見てみると、研究の動向で精神疾患を持つ妊産婦に関わる研究論文の内容では「リスクファクター」や「支援体制」の項目を扱ったものが多かった。また最新過去5年分の論文の割合が大きかった。

### <考察>

支援を必要とする妊産婦は多く存在するが、精神疾患を持つ妊産婦は自殺や児童虐待のリスクファクターとなることから注目されている。その背景には子供の育児環境の変化や精神疾患患者の治療場所の変化などがあった。それによって妊産婦の支援は「産後・病院」という狭い範囲から、「妊娠期・地域」という広い範囲へと移行している。研究の動向からもその傾向は読み取れる。範囲が広がれば広がるほどその支援体制は未だ確立が進んでおらず、各々の病院ごとに支援が異なっているという問題もあり、これからの課題の1つとして一律の医療、行政の支援体制の構築が考えられる。

また、精神疾患合併妊婦が「ハイリスク妊婦管理加算」に追加されたのは2016年と遅かったため、対する支援もまだ充分とは言えない。特に、妊娠期の薬物中断による症状悪化は妊娠管理の分野では事例として多く挙がっていた。総合病院でないと精神科と産科の連携が難しいこともあり、周産期のスクリーニングから漏れてしまう妊産婦相手にどのように支援を行っていくかも課題である。

### <結論>

精神疾患を持つ妊産婦への支援として「地域連携」、「妊娠期からの支援」、「精神科と産科の連携」、「切れ目のない支援」が重要であり、医療現場のみならず地域と連携を図っていく重要性が示された。